

令和5年

第11回11月定例教育委員会議事録

令和5年11月24日

大野城市教育委員会

次 第

- 1 招集日時
○招集日 令和5年11月24日
○開会時間 午前10時00分
○閉会時間 午前10時45分
- 2 招集の場所 大野城市役所 本館3階 災害対策本部室
- 3 会議次第
 - (1) 議事録署名委員
令和5年第10回議事録の署名委員 山口 典子 委員
第11回議事録の署名委員 松本 民仁 委員
 - (2) 議事 なし
 - (3) 教育長報告
 - (4) 報告
①「子どもの育ちと学びをつなぐ接続期カリキュラム」について
 - (5) その他
①教育長業務報告（10月～11月分）
②教育委員会の主な行事・業務の予定（12月分）
- 4 出席した委員等 伊藤 啓二（教育長） 松本 民仁 高野 英機
山口 典子 藤河 久美 佐藤 友恵
- 5 欠席した委員 なし
- 6 出席した職員 教 育 部 長 船越 康二
教育政策課長 光野 直隆
教育振興課長 中島 大輔
教育支援課長 山崎 栄子
教育支援課主幹指導主事 平井 源樹
スポーツ課長 中川 啓
教育政策課係長 川口 司寛
教育政策課担当 佐藤 恵士
教育政策課担当 橋本 由美
- 7 会議の書記 教育政策課担当 橋本 由美
- 8 傍聴者 1名

午前10時00分 開会

○伊藤教育長

それでは、会議を始める前に、本日は傍聴の申出がっておりますので、議事等の内容については全て公開ということですから、傍聴者の入室を許可したいと思います。よろしいでしょうか。

[「異議なし」の声あり]

○伊藤教育長

それでは、ただいまから令和5年11月の定例教育委員会を開会いたします。

では、議事録の承認に入ります。

前回の10月定例会にて山口委員にお願いをしておりましたので、署名をお願いいたします。

それでは、今回の議事録の署名については、松本委員にお願いをいたします。次回委員会においてご署名をお願いいたします。

[議 事]

○伊藤教育長

それでは次に、次第の3、議事です。

今回、議事はございません。

[教育長報告]

○伊藤教育長

4、教育長報告。

それでは、2つ報告をさせていただきます。

まず1ページ、令和7年度福岡県教員採用候補者選考試験と書いてあるプリントがあると思いますので、ご覧いただきよろしいでしょうか。

今、全国的に教員採用試験の見直しが行われておりまして、福岡県の教員採用試験についても、「ここが変わります」ということで、来年度に向けて進んでいるところ。です。

まず、変更点ですが、第1次試験が令和6年6月16日ということで、1か月ほど早くなります。教員だけではなく、様々な採用の時期に合わせて、できるだけ早く教員候補者の選考を行いたいという趣旨でこのように行われます。

それから福岡県独自の改革としまして、そこに4つ四角の枠がありますが、左上の大学3年生チャレンジ特別選考が来年度から導入されます。これは、大学の3年生から1次試験を受けることができ、その1次試験に合格をした場合、次の年は1次試験を免除して2次試験から受験ができるということで、大学3年生という早期に教員を目指していただくという趣旨でございます。

それから、その下に大学等推薦特別選考の拡充とありますが、今大学から推薦を受けて特別選考が行われる制度がありますが、その推薦の人数の上限が決まっていたのですが、まず、試験区分に小学校の英語の有資格者の部分が追加されたことと、推薦の人数の上限が撤廃されたということで、より優秀な人材を大学からの推薦により教員へ採用する仕組みが進んでおります。

あと2つほど書いてありますが、見ていただければと思います。

こういう形で、少しでも教員の定数不足に関する取組みを県も進めております。

次に、今日お配りしたこのプリントをご覧くださいませでしょうか。

これは、水曜日に行われました教育委員の研修会の中で、教員の研修制度改革に合わせたスケジュールはどうなっていますかという質問がありましたが、教育事務所の主幹指導主事より、教育長会からロードマップを出しておりますので、それをご覧くださいませということでしたので、本日お出しをしたものです。

教員の研修システムは、教員免許更新制が廃止になってから新しい仕組みづくりを行っていますが、概要を言えば、研修履歴をきちんと残して必要な研修を受けていただく。その必要な研修というのは、教員の育成指標というのがありますが、その育成指標を基にして、経験年数、職務に応じた研修を受けていただくという仕組みになっています。

その新しいシステムを文部科学省が令和6年度から運用することになっていますが、本年度はちょうど過渡期でして、今、福岡県の各学校の教職員は、教員研修受講履歴の記録をエクセルシートで行っています。その研修履歴を今度、文部科学省が作成した研修受講履歴記録システムに移行しますが、その流れがどうなっているかというのが先日の質問でした。

それで、複雑に書いてありますが、要は、今年度の研修履歴は、県が今までのエク

セルのデータを新システムにきちんと載せたうえで、令和5年度の1～3月の間で運用の仕組みを説明し、令和6年度4月から新しいシステムに移行します。

裏面をご覧ください。どういう研修がこの履歴に残されるかといいますと、A1からA4、それからB1からB3が載っておりますが、Aは福岡県教育委員会が実施する研修で、基本研修、課題研修、特別研修、専門研修という4つの研修があります。書いてありますとおり、それぞれの趣旨や目的が異なる研修ですが、これらの研修を受講したときは、その全部を本人が履歴に記録することになります。できるだけ簡単に入力できるようなシステムに整えられると思います。

Bは福岡県教育委員会以外が実施する研修ですが、B1は市町が実施する研修ですので、大野城市教育委員会が実施している研修はこれに入ります。これも受講者が事前に簡単に受講登録をすることができるようになります。B2、B3は、学校が実施する研修、その他機関が実施する研修で、これは自分で入力をしなければなりません。

そういう形で研修履歴を全国的にきちんと残していきながら、教員の資質・能力の向上を計画的に図っていきます。

以上、2つを説明させていただきました。今の教育長報告につきまして、何かご質問がありますでしょうか。どうぞ、藤河委員。

○藤河委員

採用試験が1か月早まるということで、それに伴って2次試験も前倒しされる計画でしょうか。

○伊藤教育長

合格通知が出る期間は早くなると思いますが、2次試験の日程については、まだ今のところ聞いておりません。今よりも若干早くなるのかなと思っています。というのは、合格を早く出すことで確保したいという趣旨があると思います。日程については、まだ詳しくは聞いておりませんので、分かり次第、お知らせします。

○藤河委員

1か月早くしたということが、教員を確保する施策の一つだと思うのですが、一般企業は、1か月よりもっと早く行っていると思うので、果たして効果的なのか、ちょっと懸念します。

それと、教員は、試験の問題ではなく、なりたい人たちが少なくなっていることが問題だと思いますので、教員の魅力というか、仕事の魅力をうまくアピールできるような施策をしてほしいと思っています。きりがない仕事なので、なっても辞めてしまったり、続かなかったりというケースも沢山聞きますので、中身の問題で施策ができたらいいなと思っています。感想です。

○伊藤教育長

今、藤河委員がおっしゃったとおり、教員を目指す人が増えることが一番大事だと思いますが、福岡教育事務所管内の取組みで言いますと、大学生に学校の魅力を先輩が話すという事業を行っています。4年生でも3年生でも2年生でも、希望者は参加できるように、各大学に案内を出して、受講している学生は沢山います。

それから、それぞれの大学で教員免許を取った人たちに教員を目指してもらえるように、いろんな取組みを進めていただいていると思いますが、特に福岡教育大学と県はしっかり連携をとりながらやっていて、正確なデータは今持っていませんが、県から聞いた内容としては、大学卒業者の教員採用試験の受験者数は減少していないとのこと。要するに、大学を出てすぐの教員を目指している人の数は決して減っておらず、むしろ微増している状況もあるということをおっしゃられました。

今、講師の数が少ないので、講師をした人たちの受験者数が減っているというのが一つ大きな要因でもあると思います。また何か今の件について分かりましたらお伝えいたします。

そのほか何かありますでしょうか。佐藤委員、どうぞ。

○佐藤委員

教員を目指す方を増やす件ですけれども、教員の免許を取るのは、中学生や高校生の時点で教員になりたいという気持ちになって大学を目指さなければ、大学生になってからなりたいと思っても手遅れのところがあるので、中学生や高校生にどれだけ学校の先生になることの魅力を伝えていくことが重要だと思います。

今、娘が高校生ですが、福岡県から教員の魅力について、子供たちが好きそうなイラストが描かれた、教員になるためにはこういう大学に入ったらいいとか、そういったことがアピールされているファイルをもらって帰ってきて、すごく面白いと言って見ていましたので、そういう取組みをどんどん増やしていけたらいいのではないかと

と思っております。

○伊藤教育長

ありがとうございます。ちょっとその辺のデータを私も認識してないので確認をしてみたいと思いますし、生徒たちが「先生になりたいな」と思えるような魅力的な先生であってほしいですね。大野城市の先生方は頑張っているんじゃないかなと思っております。

〔報告〕

○伊藤教育長

では、報告、子どもの育ちと学びをつなぐ接続期カリキュラムについて、平井主幹指導主事、説明をお願いいたします。

○平井主幹指導主事

黄緑色の冊子、子どもの育ちと学びをつなぐ接続期カリキュラムをご覧ください。委員の皆様には事前に送付させていただいておりました。各課長にはまだ配布しておりませんのでご了承ください。

この冊子は、学習指導要領の改訂を受けて、作成委員会を立ち上げ、約3年間かけて作成してまいりました。このたび完成いたしましたので、委員の皆様へ送付させていただいた次第でございます。本冊子は、質の高い教育を展開し、全ての幼児が小学校へ滑らかに接続できるように、そこに携わる教職員のバイブルとなるよう構成しております。

8ページから、理論編として、本市の考える幼児教育と小学校教育の接続の在り方について、10の姿を手がかりに丁寧に解説しております。

36ページからは、実践編として、市内の保育園や幼稚園で行われているアプローチカリキュラム、そして、小学校で行われているスタートカリキュラムについて、子供の活動の様子が伝わるように掲載しております。

今後、市内の各保育所や幼稚園、各小学校へ配付いたします。各学校の実態に合わせて活用いただき、保幼小接続のさらなる充実につなげていただきたいと思います。

○伊藤教育長

それでは、何かこの接続カリキュラムについてご質問があればお願いいたします。
どうぞ、山口委員。

○山口委員

3年がかりでつくられたとお伺いしました。この冊子は、もともと幼稚園や保育園、小学校に配布されるということですがけれども、どのタイミングで、どれぐらいの数、例えば、全職員に配付できるかとか、その辺りを教えてください。

○平井主幹指導主事

タイミングは今後、随時送付いたします。配付する数は、幼稚園、保育園等という
と、年長組の数プラス1、小学校は小学校1年生の学級数プラス1、担任は手元に置
いて、もう一冊を、主幹教諭等も見ながら、学校全体で活用できるようにしていきたい
と考えております。

○伊藤教育長

よろしいですか。

○山口委員

はい。

○伊藤教育長

表紙のイラストもたしか手描きですよ。誰が描かれたものでしたでしょうか。

○山崎教育支援課長

地域のイラストレーターの方です。

○伊藤教育長

地域の方をお願いをしてイラストを描いていただいた冊子になりますので、ぜひ活
用していただきたいと思います。

また、目を通していただいて、何かお気づきのことがあったら、ご意見をいただけ

ればと思います。

[その他]

(1) 教育長業務報告 (10月～11月分)

(2) 教育委員会の主な行事・業務の予定 (12月分)

○伊藤教育長

では、これをもちまして11月の定例教育委員会を閉会いたします。

午前10時45分 閉会